

架空請求にご注意を



登録手数料や退会手数料などと理由をつけて高額な料金を請求してくる架空請求。被害を未然に防止するため、専門相談員が出向いて消費生活出前学習会を実施し、トラブルの事例や詐欺の手口、対処法などを紹介している。悪質商法の被害から身を守るためにもぜひ活用を。お申し込み・お問い合わせは消費生活センターで受け付け中。また事業者との契約トラブルや架空請求、多重債務等の相談は来所または相談専用電話042-722-0001へ。

町田市消費生活センター 042-725-8805

みつはしちかこ展 一恋と、まんがと、青春と一



©Chikako Mitsuhashi

期 間 10月20日(土)～12月24日(月・振休)

場 所 町田市民文学館ことばらんど

家族とともに玉川学園に暮らした漫画家のみつはしちかこ。『小さな恋のものがたり』『ハーイあっこです』などの漫画作品をはじめ、自身が編集を手がけた雑誌『いつかどこかで』で発表されたイラストや詩画、少女時代からたしなできた俳句などを紹介する。みつはしちかこの足跡を顕彰する町田市初の本格的展覧会。10時～17時 一般400円 大学生・65歳以上200円

町田市民文学館ことばらんど 042-739-3420

2050年の地球環境と 市民生活を考える



期 日 11月25日(日)

場 所 生涯学習センター7階ホール

生活に即したテーマで学ぶ「まちだ市民大学HATS」の公開講座。東京大学名誉教授の安井至氏に、エネルギー問題、地球の気候変動を抑えるパリ協定、温暖化懐疑論など、行政や市民が未来に向けてより良い生活を送るための長期的課題について伺う。イベントダイヤル042-724-5656(11/18まで)または生涯学習センター(11/19以降)で申し込み。14時～16時 入場無料

町田市生涯学習センター 042-728-0071

まちなかシネマ MACHIDA



期 間 毎月最終(12月・3月は第3)金曜日

場 所 町田ターミナルプラザ市民広場

2019年3月まで毎月最終金曜日に開催される映画無料上映会「まちなかシネマ」。屋外大型スクリーンでの迫力ある映像がJR横浜線町田駅ターミナル口からすぐ、ベデストリアンデッキ直結の町田ターミナルプラザ市民広場で楽しめる。11月30日は『モンスターホテル』、12月21日は『アーサー・クリスマスの大冒険』を上映予定。19時～ 雨天決行 入場無料

町田市産業政策課 042-724-3296

第3回 まちだ里のマルシェ



期 日 12月1日(土)

場 所 野津田農村伝道神学校グラウンド

地産地消をテーマに定期開催している『里で見つける いいモノ、いい場所、いい出会い』。作り手と買い手が顔の見える関係で、里山の環境・文化を愛し未来につなごうと活動している。生産者とおしゃべりしながら、町田市と周辺のおいしいものを買って、自然の中でのんびり遊ぶ、豊かで贅沢な時間をぜひ！10時～14時 運営ボランティアも募集中。詳細はまちだ里のマルシェのFacebookで。

実行委員会事務局 090-1955-7129

町田フィル ミニコンサート



期 日 1月26日(土)

場 所 和光大学ボリホール鶴川

1975年から地域音楽文化振興の中心的な役割を担ってきた町田フィルハーモニー交響楽団。年2回の定期演奏会では披露できない管楽・弦楽など小編成のアンサンブルによる気軽なコンサート。ラプソディー・イン・ブルー／ガーシュイン、セレナード第2番(第1楽章)／ブラームス、交響曲第40番(第1楽章)／モーツァルト ほか。19時30分開演 入場無料(チケット発券の場合あり)詳細は町田フィルのFacebookで。

まちびと写真館

つくし野オペラコンサート

昭和59(1984)年4月29日

其の十一



東敦子さんは、町田フィルの団員と共に早朝練習にも参加し当日を迎えた。毎年4月29日は、この日のために他の予定は決して入れなかったという。

撮影した場所

東急田園都市線 つくし野駅前



駅前が劇場と化した日

風の強い、ある晴れた日の午後。普段は閑静なつくし野の駅前が、聴衆で溢れ返った。1984年から12年間続いた「つくし野オペラコンサート」は、駅前が再開発で綺麗になったとき、近くに住んでいた東敦子さんの一言がきっかけで始まった。「この煉瓦は歌声が綺麗に響きそう。イタリヤでは、街のあちこちから歌声が聞こえてくるのよ。」

東敦子さんは日本人として初めてウィーン国立歌劇場の舞台に立った日本が誇るソプラノ歌手だ。透明感あふれる歌声と圧倒的な表現力で日本オペラ界を牽引した。

タクトを振ったのは町田フィルを創設時から指導してきた荒谷俊治氏。ロッシニ「セヴィリアの理髪師」序曲の軽快な音色が響き渡ると、駅前の空気は一変した。中には九州から駆け付けたという人もいた。駅では切符が無くなり、駅員が手作りしてその場をしのいだという。

世界のプリマドンナの歌声と町田フィルが紡ぐ音の旋律が一つとなり、街を包み込んだ。その夢のような午後は、今でも記憶の片隅で想い出と共に美しい音色を放ち続けている。